

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1966
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.59, No.5 (1966. 5)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19660501--001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾経済学会

三田學會雜誌

1966年 5月号

論 説

小作関係の成立.....渡辺國廣 1
——フランス地主制史論——

資料・研究ノート

所謂立地型の識別について(続).....高橋潤二郎 19
昭和40年国勢調査「速報」に
みられる人口集中現象について.....鳥居泰彦 31

書 評

隅谷三喜男著「労働経済論」.....飯田 鼎 56
安藤英治著「マックス・ウェーバー研究」.....中村勝己 61

新刊紹介

学位授与報告

59 卷 5 号

昭和41年5月13日
発行所 慶應義塾
〒108 東京都港区三田
三田三丁目1番1号

昭和41年5月13日
発行所 慶應義塾
〒108 東京都港区三田
三田三丁目1番1号

三田学会雑誌

昭和四十一年四月号

定価 金二〇〇円(送料別)

MITA GAKKAI ZASSHI

(Mita Journal of Economics)

Vol. 59, No. 4

April, 1966

Issues in International Economics

CONTENTS

Articles

Problem of North vs. South and Southeast
Asian Economy
——An Approach from Policy Theory——.....*N. Yamamoto* 1
Purchasing Power Parity Theory
and Wage Level.....*Y. Sazanami* 14

Note and Memoranda

Economic Development and Dual Economies.....*K. Yanaihara* 32
A New Development in the Theory
of Customs Unions
——*J. Vanek* on the Issue——.....*M. Ohyama* 42
Measures for Trade Expansion
of Developing Countries.....*H. Fukami* 60

Book Reviews

Katsu Yanaihara: Export and Economic
Development in Developing Countries.....*T. Kawata* 78
U. S. Department of Commerce, Area
Redevelopment Administration:
Area Redevelopment Policies in Britain
and the Countries of the Common Market.....*J. Takahashi* 83

Published for

KEIO-GIJUKU KEIZAI GAKKAI

(The Keio Economic Society)

Editorial Communications to be sent to
the Editor, Keio-Gijuku Keizai Gakkai,
Keio University,

Mita, Minato-ku, Tokyo, Japan.

Price 200 yen

新刊紹介

大塚久雄編『マックス・ヴェーバー研究 —生誕百年記念シンポジウム—』	飯田裕康	67
村野孝編『国際通貨制度 —問題点と将来—』	深海博明	68
南亮三郎編『人口都市化の理論と分析』	鳥居泰彦	69
根岸隆著『価格と配分の理論』	川又邦雄	70
稲田献一著『新しい経済学 —ビジョンと実証—』	川島康男	72

小作関係の成立

—フランス地主制史論—

渡辺國廣

序 —結びもかね—

〔一〕 土地は耕作する者が所有した。しかし十七世紀を通じかかる原則は急速に崩壊してしまった。土地は耕作しない者の手に移った。いわゆる余所者による土地の集積で、余所者のうち官僚が中心勢力を形成した。土地に向う都市の資本の出所はいずれも同一で、裁判や財政の役職から来たのであった。⁽¹⁾しかし土地がこれらブルジョワの手に渡った時、もはや単に社会的上昇のための手段ではない。同時にそれは彼にとり盛んな収益をもたらす場でなければならなかった。彼は変動の多い経済のなかで俸給だけに依存することがいかに危険であったかに気づき、土地からの収益で生活の安全を期そうとしたのである。集積者は貨幣経済の高まりのなかで大量の貨幣を必要とした。しかし彼が都市の生活者として本務を持ち、役畜を持たなかったということは、土地財産で目的を達しようとする際に決定的な意味を持った。土地から収入を得るため、彼は賃貸借関係によらなければならぬ。今や賃貸借を通じ、貨幣が狙われることは必至であった。

〔二〕 土地に対する関心はもっぱら貨幣に対する高い必要に帰せられる。経済的関心がすべてであった。土地集積者の側

小作関係の成立